

資料に親しむ会 令和4年度第6回

「みなとオアシス登録記念 川の港・伏見港、半世紀前の姿

京都府行政文書「伏見港公園水泳場公開一件」より」

京都府立京都学・歴彩館職員が「みなとオアシス登録記念 川の港・伏見港、半世紀前の姿京都府行政文書「伏見港公園水泳場公開一件」より」を、下記のとおり開催しました。

記

■ 日 時 令和4年10月11日（火）午後2時～3時

■ 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール

■ 参加者数 86名

■ 内 容 伏見港は、近世から昭和にかけて、京都の外港として大きな役割を担い、廃港して埋め立てられた後は公園やプールが整備された。
港町や伏見港、伏見港公園プールの沿革や様相を、京都府行政文書「伏見港公園水泳場公開一件」を始めとする資料を用いて紹介した。

■ 参加いただいた方々のご意見 （参加者アンケートより）

- ・江戸時代から現在までの伏見港の歴史を勉強できた。
- ・伏見港の近くに居住しているので、プールや公園など懐かしく感じた。
- ・伏見に火力発電所があったことは知らなかった。
- ・見る機会が少ない行政文書について知ることができてよかった。
- ・行政文書のおもしろさや価値が分かった。
- ・プールに地下水を利用する際の、酒造組合との関わりを知りたい。

（講座の様子）

